

て居らねばならぬ、只今の如く『オイ洋剣だ』ガチャリではありません、刀を受取るにも袖口の中へ手を引込め袖でやわりとまくやうな必持で受取り歸りに渡す時も鞆に手を觸れるやうな事は致してはならぬ、袖口でやわりしつかりと鞆の鐙に近い所を握つて渡したもので、何しろ兩刀ですから目方が重い重い此兩刀を撥より持たぬ非力の藝妓が煽やかに扱うのですから並大抵ぢやない若し粗忽して落さうなら大變な事だ、又大勢の宴會になると其客人と刀とをよく覺えて間違なしに渡さなければならぬ、不足札や、帽子の合札を出して「貴客は何番で御座いますか、十五番さん鳥渡お待ちなつて下さいませ、探しとりますから、貴客のお帽子の色は」なんぞといふへまなのぢやないから氣骨の折れる事尋常ぢやない

客の中には用心の爲めだとして小刀一本位の傍に置く人もあるが大抵は丸腰になつて了ふ、此夜も三輪田其他の面々寛々と大盃を舉げて痛飲致しゐると、バラ〜と躍込んだ所司代の與方に會津藩士、何しろ浪士一名に對し與方一名會津藩士七名といふ手當だから耐まらん、今迄舞妓の蝶が長い友染の袖を翻してチツテンチンリンとかなんとか舞つて居た座



維新の陰に女あり…。幕末の京、名妓君尾が接した志士の群像。本邦初の「女の維新史」

勤王藝者

小川煙村

マツノ書店

「女」の維新史を推薦する

奈良本辰也



「男」のために書かれた維新史の本は多いが「女」のためとして書かれた本は、少ない。という文章が冒頭に掲げられて『維新侠艶録』という本が出版されたことがある。昭和三年に出た井上月翁という人の著書だ。

敗戦以来、女性の地位は大きく上がり、男性史ならぬ女性史が人々の注目を浴びてきた。しかし、その女性史も、こと維新史に関する限り従である。私もずいぶん小説やエッセイなどで、維新史を扱ってきたが、この『維新侠艶録』のように、それを突きつけられると、やはり気になるのである。

その『維新侠艶録』より十八年も前に刊行され、著者の井上月翁が大いに参考にしたと思われるのが、このたび復刻される『勤王芸者』である。

防長出身の志士は、さすがに多い。桂小五郎・高杉晋作・井上聞多・久坂玄瑞・品川弥二郎に至るまで、京都などで芸者の膝枕に一服のやすらぎを与えられた。『勤王芸者』は、そのことごとくを明らかにしている。もちろんそれは恥ずかしいことではない。尊皇攘夷のはげしい政治がなせる業なのだ。

この著者の語り口は、いかにも時代物を思い出させる親しみやすい口調である。私は以前、得富太郎氏の『幕末防長勤王史談』全十巻を読んだことがあるが、その語り口とどこか相通じるようなものがあつた。いや語り口だけではない。全体の構成にもそれを感じさせるものがあつた。

さて、本書の筋骨きは、勤王芸者としての君尾という女性が中心となつて展開される。まさに女から見た維新史である。

でも、芸者の活動範囲は限られている。祇園に納まっている場合はそれよいが、それだけでは面白くない。その彼女に他から口がかかつて、外に出てゆくこともある。話はそこから発展する。

九条家に食い込んで権勢をふるっていた島田左近や、新撰組の近藤勇なども、そうした一人であった。佐幕派といわれる連中が、彼女の美貌と才知に目を付けこれを近くに呼び寄せるのだ。

彼女としても、それを拒むことはできない。そこに新たな展開が考えられるのであるが、それも幕末史の一面面である。いや重要な一場面と言つてもよい。そうした幕末史の裏面を知ることができ、この一書であろう。

初めて刊行された「女の維新史」として広く江湖に推薦したい。



木戸孝允の妻となった芸者久坂

目次抄

復刻版への序文（奈良本辰也）
憂国の志士皆能く遊ぶ
高杉井上に切腹を教へる
御殿山の焼討
井上聞多の和歌一首
国の為めには貞操も破れ
世にも名高き寺田屋騒動
久坂玄瑞の風流情事
禍の基は女色から

勤王志士の襲撃
島田左近の最後
洋行が出来ねば切腹ぢや
井上伊藤洋行の苦心
井上聞多暗殺に逢ふ
足利尊氏の手を斬る
君尾近藤勇に口説かる
長藩士と新撰組
鎗の穂先の露と消ゆるか
鉄扇で横面を殴る
久坂玄瑞の恋の発端
易者久坂の一身を予言す

久坂の一喝、井上の箒
島原太夫と新撰組
大鋸を振廻す新撰組
長州勢退京の由来
薩人黒谷の会津を襲ふ
薩摩武士の切腹
長州藩の憤慨
久坂よりお辰に与ふる手紙
池田屋騒動の顛末
長州大挙して来る
蛤御門の激戦
久坂寺島のたち腹

長州の落武者祇園町へ来る
義士天王山に死す
桂小五郎と芸妓幾松
伊藤俊介出雲の神となる
其相棒は広沢兵助
西郷隆盛と豚姫
南洲翁に豚鉄砲を食はす女
老いて榮する勤王芸妓

▼本書は明治四十三年に東京の日高有倫堂から刊行されました。今は山口県内にもほとんど残存しない珍本です。

▼五百部しか作りませんので、この機会にぜひお求め下さい。

■体裁 A5版二六〇頁
並製箱入

■予約特価 三、〇〇〇円
■定価 四、〇〇〇円 (〒380)

■三点セット特価
申込ハガキをご覧ください

■予約締切 95年12月末(厳守)

■発売 96年1月下旬予定

限定五百部復刻

▼僅少数につき、品切れの際はご容赦願います。

▼書店には卸しません。

〒746徳山市銀座2
☎083-822-2955

マツノ書店